

強い農業づくり交付金(整備事業)等実施状況一覧

平成21年度										H23稼働状況等		成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等		
No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	実績	稼働率	目標年度	項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H23目標値 (C)	H23実績 (D)			目標達成 状況	評価
1	産地競争力の強化に向けた総合的推進(水田総合利用課)	21	鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市、上小阿仁村	北鹿	あきた北央農業協同組合	(飼料用米等) 穀類乾燥調整貯蔵施設の再編整備(処理量2,000t)	45,401	21,619	処理量 2,000t	1,619.0t	81.0%	H23	再編後の利用率を増加	(H20) 11%	(H23) 122%	122.0%	109.0%	88.3%	B	新規需要米作付面積は増加しているが、単収が計画数量に達していない。	施設整備により新規需要米(飼料用米)の作付面積が、計画面積213haに対し306haと大幅に増加するとともに、施設の利用率も年々向上している。
													飼料用米の10a当たりの単収を増加	(H20水稲) 554kg	(H23飼料用米) 750kg	750kg	444kg	-56.1%	D	計画策定時、作付けする品種は秋田63号のみを予定していたが、作付割合が7割弱に留まったこと及び施肥不足のため、計画単収に達していない。	しかし、単収が計画に対し59.2%となっていることから、講習会を開催し、肥培管理などの栽培技術の浸透を図り、増収を目指したい。
2		21	大館市	八木橋	八木橋地区集落営農組合	(水稲) 田植機 8条 1台 (原油高騰対策)	3,150	1,050	稼働面積 15.0ha	11.2ha	74.7%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.90L	(H23) 1.19L	1.19L	0.89L	142.3%	A	農業機械の省エネマニュアルに基づく保守点検及び作業の実践、多条化(6条→8条)により、削減目標37.3%に対し53.1%削減した。	省エネの機械を導入した結果、燃料削減や生産性の向上につながり、目標を達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H23) 2.93時間	2.93時間	2.64時間	126.5%	A	6条田植機に代えて8条田植機を導入し、削減目標19.9%に対し27.8%削減した。	
3		21	秋田市	四ツ小屋	上野ファーム栽培組合	(水稲) 田植機 8条 1台 (原油高騰対策)	3,190	1,063	稼働面積 16.4ha	14.2ha	86.6%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.70L	(H23) 1.24L	1.24L	0.80L	195.7%	A	効率的な作業計画の実施と省エネマニュアルに基づく保守点検などの実施により、削減目標27.0%に対して52.9%削減した。	稼働面積に合わせた計画的な作業と省エネマニュアルによる点検を徹底し、苗の補充時にはエンジンを止めるなどにより、燃油使用量の削減目標が達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.18時間	(H23) 2.90時間	2.90時間	2.75時間	125.1%	A	田植機の多条化と高速化により、労働時間の削減目標8.8%に対して13.5%削減した。	また、労働時間削減も目標を達成できた。
4		21	秋田市	雄和	農事組合法人種沢ファーム	(水稲) 田植機 8条 1台 (原油高騰対策)	3,023	959	稼働面積 15.0ha	27.0ha	180.0%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.70L	(H23) 1.23L	1.23L	1.00L	148.9%	A	計画的かつ効率的な作業の実施と省エネマニュアルに基づく保守点検などの実施により、削減目標27.6%に対して41.1%削減した。	機械の操作マニュアル及び省エネマニュアルに沿った作業により、燃油使用量の削減目標を達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.18時間	(H23) 2.86時間	2.86時間	1.18時間	363.3%	A	田植機の多条化と高速化により作業効率の向上が図られ、削減目標10.0%に対して62.8%削減した。	また、機械の能力に応じた効率的な作業を行い、労働時間削減も目標を達成できた。
5		21	秋田市	追分	中野集団栽培組合	(水稲) 遠赤外線乾燥機 60石 1台 (原油高騰対策)	2,310	1,155	稼働面積 22.5ha	26.5ha	117.6%	H23	1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H17~19平均) 15.7L	(H23) 12.2L	12.2L	6.60L	260.0%	A	適期刈り取りと計画的な張り込み及び省エネマニュアルに基づく保守点検などの実施により、削減目標22.2%に対して57.9%削減した。	適期刈り取りに努め、過剰な水分による燃料消費を削減するとともに、計画的な刈り取りにより、稼働時間の縮小に努めた。
													乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H20) 3.37時間	(H23) 2.81時間	2.81時間	1.68時間	226.0%	A	計画的な刈り取り作業と効率的な作業に努めたことにより、削減目標16.6%に対して50.1%削減した。	また、省エネマニュアルによる保守点検を徹底した結果、目標を達成できた。
6		21	由利本荘市	西目	ドリームカンントリーファーム	(水稲) 田植機 8条 1台 (原油高騰対策)	3,717	1,196	稼働面積 15.0ha	8.9ha	59.3%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 1.7L	(H23) 1.13L	1.1L	0.90L	140.4%	A	最新の田植機の導入により、使用燃油量の削減目標33.5%に対し47.0%削減できた。	高性能な田植機の導入により、燃油使用量、労働時間とも削減目標を達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H23) 3.20時間	3.20時間	2.47時間	188.4%	A	田植機の高速化により、削減目標12.5%に対し32.5%削減できた。	しかし、田植機の稼働率については、地域全体でブロックローテーションを組んで大豆作付による生産調整を行っており、年により水稲作付面積の変動が大きいことから、低調に推移した。
7		21	由利本荘市	本荘	子吉第2穂乾燥調整施設利用組合	(水稲) 遠赤外線乾燥機 55石 4台 (原油高騰対策)	9,521	4,730	稼働面積 24.6ha	23.5ha	95.5%	H23	1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H18~20平均) 11.20L	(H23) 8.70L	8.70L	11.66L	-18.4%	D	刈り取り時期の降雨により、稲穂の水分量が多かったことから、燃油使用量を削減できなかった。	高性能な遠赤外線乾燥機の導入により、設定水分に対する仕上がり精度が向上するとともに、労働時間の短縮ができた。
													乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 1.43時間	(H23) 1.36時間	1.36時間	0.97時間	283.1%	A	高性能機械の導入により、労働時間の削減目標4.8%に対し32.1%削減できた。	燃油使用量の削減は目標未達成のため、天候に留意して稲水分量の低い時期の収穫作業を行うとともに、省エネマニュアルによるチェックを徹底し、燃油使用量の低減を図りたい。
8		21	大仙市	四ツ屋	新谷地ライスセンター利用組合	(水稲) 田植機 8条 2台 (原油高騰対策)	7,418	2,355	稼働面積 36.7ha	37.2ha	101.4%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 0.62L	(H23) 0.32L	0.32L	0.75L	-43.3%	D	ほ場条件の悪い箇所が一部あり、燃油使用量が増加した。	効率的な作業ローテーションにより労働時間削減は目標達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.63時間	(H23) 3.61時間	3.61時間	3.25時間	194.0%	A	作業のローテーション等に注意し、労働時間の短縮に努めた結果、削減目標0.5%に対し10.4%削減できた。	燃油使用量の削減は目標を達成していないため、効率的な作業体系の確立と、省エネマニュアルによる点検を徹底し、成果目標の達成に努める。
9		21	大仙市	神岡	大浦田植機械共同利用組合	(水稲) 田植機 8条 1台 (原油高騰対策)	3,728	1,183	利用面積 13.0ha	12.5ha	96.2%	H23	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H18~20平均) 0.63L	(H23) 0.296L	0.296L	0.466L	49.1%	D	一部、条件の悪いほ場があったため、非効率的な作業となり、削減目標53.0%に対し26.0%削減に留まった。	作業計画に留意して実施した結果、労働時間削減は目標達成できた。
													田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.70時間	(H23) 3.56時間	3.56時間	3.51時間	109.8%	A	作業計画に留意し、労働時間の短縮を図った結果、削減目標3.7%に対し5.1%削減できた。	燃油使用量の削減は目標を達成していないため、計画的・効率的な作業体系構築に努めるとともに、省エネマニュアルによる点検を徹底し、成果目標の達成に努める。

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H23稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H23目標値 (C)	H23実績 (D)	目標達成 状況		
10	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	21	大仙市	中仙	農事組合法人アグリサービス中仙	(大豆)遠赤外線乾燥機80石2台 (原油高騰対策)	5,376	2,560	利用面積 60.0ha	117.5ha	195.8%	H23	糶1t当たりの乾燥調製に要した燃油使用量を削減	(H18~20平均) 21.16L	(H23) 16.50L	16.50L	10.19L	235.4%	A	刈取時の天候に留意する等、乾燥開始時の水分量を調整した結果、削減目標22.0%に対し51.6%削減できた。 また、労働時間削減については、目標達成できていないことから、作業手順を見直し、効率的な作業実施により目標達成に努める。
													乾燥調製作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 1.8時間	(H23) 1.6時間	1.6時間	2.15時間	-44.7%	D	
11		21	横手市、美郷町	平鹿	秋田ふるさと農業協同組合	(水稲、大豆)カドミウム分析設備一式	67,174	31,987	稼働面積 8,324.0ha	8,201.0ha	98.5%	H23	重金属等の有害物質の低減に取り組む面積を増加	(H20) 3,373.1ha	(H23) 4,386.0ha	4,386.0ha	4,559.6ha	117.1%	A	重金属等の有害物質の低減に取り組む面積については、湛水管理地域を広げ注意喚起を強く促している。 また、大豆は連作による収量減が見込まれることから、輪作の実施・排水対策(暗渠)と遅期防除(防除薬剤等の見直し)の指導を徹底し、目標達成にむけ努めたい。
													大豆の10a当たりの単収を増加	(H20) 190kg	(H23) 209kg	209kg	114.4kg	-397.9%	D	
12	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	21	小坂町	鹿角	株式会社まんなまランド	(精肉等)加工・直売・地域食材供給・交流施設・鉄骨2階建て食肉加工処理機械等一式	177,828	75,000	販売量 43,457kg	48,146kg	110.8%	H23	農畜産物の県内に向けた出荷額を増加	(H20) 192,000千円	(H23) 482,000千円	482,000千円	513,088千円	110.7%	A	県内量販店との取引が順調であるものの、更なる販路拡大に努めたい。
													直売施設等における地場産物の販売額増加	(H20) 15,200千円	(H23) 103,139千円	103,139千円	116,333千円	115.0%	A	
13		21	由利本荘市	東由利	新町飼料生産組合	(飼料)自走式マニユアスプレッダ1台	3,486	1,575	稼働面積 28.25ha	25.7ha	91.0%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 17.54ha	(H23) 28.25ha	28.3ha	25.7ha	76.5%	C	飼料作物ほ場に対する、全面・平均的な堆肥散布が可能となり収量の増加が見られた。あわせて収穫面積・飼料自給率を増加することができた。今後作業スケジュールを検討し、目標達成を目指していく。
													飼料自給率を増加	(H20) 66.3%	(H23) 91.4%	91.4%	87.5%	84.5%	B	
14		21	大仙市	中仙、仙北	中仙地域WCS利用促進協議会	(飼料)稲発酵粗飼料用ロールペーラー1台	8,500	4,047	稼働面積 20.0ha	35.0ha	175.0%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 46.24ha	(H23) 60.00ha	60.0ha	61.4ha	110%	A	耕種農家との連携を強化し、面積の拡大及び自給率向上に努める。
													飼料自給率を50%増加	(H20) 59.2%	(H23) 88.8%	88.8%	90.8%	107%	A	
15		21	大仙市	神岡	大仙市	(飼料)草地整備改良(7.2ha)	9,504	4,751	利用面積 7.2ha	7.2ha	100.0%	H23	公共牧場の1日平均利用頭数を増加	(H19) 46.8頭	(H23) 60.0頭	60.0頭	53.3頭	49%	D	畜産農家は減少しているが、管外農家の利用を促しながら目標達成に努める。また年度計画で事業を行っているが完了後(3か年)の目標達成を目指していく。
													飼料自給率を増加	(H19) 71.2%	(H23) 107.0%	107.0%	103.8%	91%	B	
16		21	横手市	横手	横手北部WCS生産組合	(飼料)稲発酵粗飼料用ロールペーラー1台、自走式ラップマシーン1台	13,020	5,043	稼働面積 18.0ha	17.3ha	96.1%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 26.0ha	(H23) 36.0ha	36.0ha	34.5ha	85.0%	B	畜産農家・耕種農家双方と連携し需給バランスの調整を図りながら、取り組み面積の拡大に努めていく。
													受託農家戸数を増加	(H20) 13戸	(H23) 20戸	20戸	20戸	100.0%	A	
17		21	横手市	十文字	横手西部WCS生産組合	(飼料)自走式ラップマシーン1台、ペールクラブ1式	4,190	1,256	稼働面積 60ha	50ha	83.3%	H23	飼料収穫・収集面積を増加	(H20) 52.0ha	(H23) 60.0ha	60.0ha	50.0ha	-25.0%	D	耕種農家の作付動向は国の農業政策に左右されやすい状況にあり、計画していた面積の確保が困難であったが、耕種農家と畜産農家双方と連携し作付け拡大に向け努力した。 今後も畜産農家・耕種農家双方と連携し受託農家戸数を増やし、安定供給に努めていきたい。
													受託農家戸数を増加	(H20) 8戸	(H23) 17戸	17戸	40戸	355.6%	A	

A	100%以上(目標達成)
B	80~99%
C	50~80%(改善指導対象)
D	50%以下(改善指導対象)

強い農業づくり交付金(整備事業)等実施状況一覧

平成19年度																					
No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H23稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等	
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H23目標値 (C)	H23実績 (D)	目標達成 状況			評価
1	経営構造対策(農山村振興課)	19	にかほ市 由利本荘市	にかほ市・ 由利本荘市 西目	秋田しんせい 農業協同組合	(水稲) 乾燥調製貯蔵施設 1棟521㎡ 処理量2,000tの増 強	532,163	245,000	5,000t	4,849t	97.0%	H23	認定農業者の育 成	(H18) 230経営体	(H23) 247経営体	247経営体	250経営体	117.6%	A	担い手の確保が計画どおり進んでいる。	施設整備により作業受委託が促進、担い 手への農地集積が図られた。 「馬鈴薯」は、平成19年約19haと順調に 拡大したが、同年「疫病」が60%のほ場に発 病、皆無となるほ場も散見。以後、発病を 恐れ作付を断念する農家などもおり、作付 が伸びていない状況にある。 このため、リスクを分散し、馬鈴薯作付の 伸びをカバーする作物として、業務用キャ ベツへの作付け誘導を行い、栽培技術の 向上と農業経営の安定を図り、作付面積 拡大に取り組んでいく(H23では馬鈴薯18.1 ha、キャベツ5.18ha、合計で23.31ha)。
													担い手への農地 の利用集積の向 上	(H18) 48.3%	(H23) 66.0%	66.0%	73.8%	144.1%	A	担い手への農地の利用集積が計画ど おり進んでいる。	
													新たな転作物 (馬鈴薯)の作付 面積拡大	(H18) 7.9ha	(H23) 24.8ha	24.8ha	18.1ha	60.4%	C	当初計画していた馬鈴薯が病害等の影 響で作付拡大が停滞、リスクを分散し、所 得の拡大を図るため新規作物を組み合わ せて作付けすることとしたため。	
2		19	大仙市	かくまがわ	農事組合法人 かくまがわ	(水稲) 乾燥調製施設 1棟388.9㎡	94,450	44,976	処理量	270t	115.4%	H23	担い手への農地 の利用集積の向 上	(H18) 47.7%	(H23) 63.8%	63.8%	70.3%	140.4%	A	担い手への農地の利用集積が計画ど おり進んでいる。	乾燥調製施設の設置を契機に、担い手 への農地の利用集積が向上するなど、効 率的な生産体制を確立することができた。 また、法人化したことにより地域の労働力 を雇用し、効率的な活用が図られている。
									高年齢農業者の雇 用				(H18) 0人	(H23) 35人	35人	42人	120.0%	A	法人化を契機とし、高齢者の雇用を強化 している。		
									家族経営協定の 締結				(H18) 0件	(H23) 2件	2件	1件	50.0%	C	協定締結対象者(候補者)が就農に至って おらず、未達成。		
								234t				認定農業者の育 成	(H18) 27経営体	(H23) 28経営体	28経営体	28経営体	100.0%	A	地域内で掘り起こしを図り、目標の経営 体数を確保することができた。	家族経営協定については、新たに対象者 を選定し、今後の協定締結を目指す。	
																A	100%以上(目標達成)				
																B	80~99%				
																C	50~80%(改善指導対象)				
																D	50%以下(改善指導対象)				